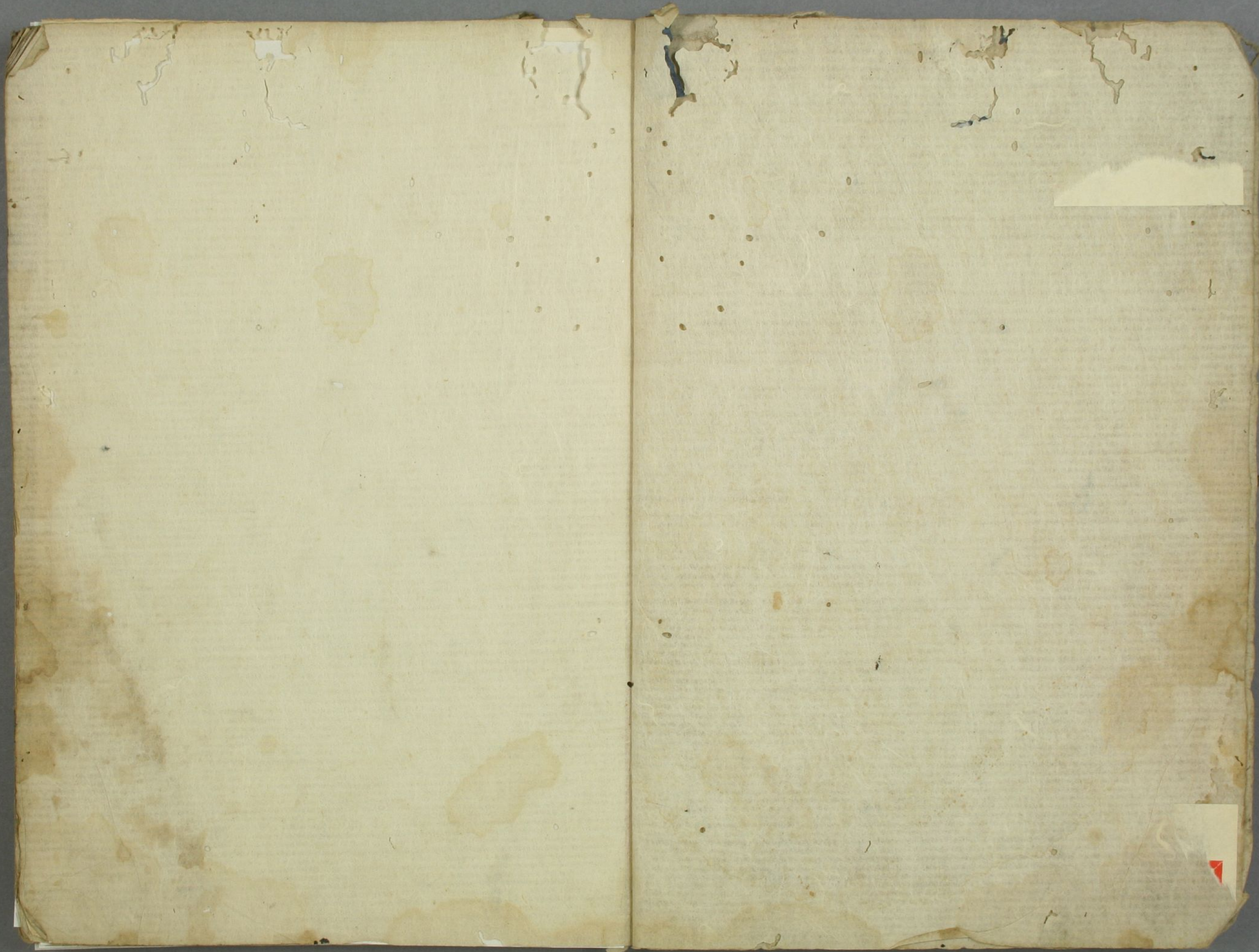


中村俊定文庫
文庫 18
437
2





驚ふ牛馬の 陽の光を 照らす 志仲

夕の光を 照らす 陽の光

雲の影を 照らす 陽の光

池の影を 照らす 陽の光

鳥の影を 照らす 陽の光 池月

幅の影を 照らす 陽の光

橋の影を 照らす 陽の光

馬の影を 照らす 陽の光

長の影を 照らす 陽の光 竹經

草の影を 照らす 陽の光

高の影を 照らす 陽の光

寂の影を 照らす 陽の光

山の影を 照らす 陽の光 朴子

空の影を 照らす 陽の光

橋の影を 照らす 陽の光

路の影を 照らす 陽の光

先

晴く見たりと名おち梅の意 立 梅州

吸身さ如二階と通ふ雲う南

初六 立 暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

驚く腫る中 立 暮るに暮るに暮るに暮る

半蔵 立 暮るに暮るに暮るに暮るに暮る 中村 隣香

お新 立 暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

水崎 立 暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

船 立 暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

春信 立 暮るに暮るに暮るに暮るに暮る 玉造 可雲

暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

朝顔 立 暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

暮るに暮るに暮るに暮るに暮る 立 鹿苑

暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

暮るに暮るに暮るに暮るに暮る

何れも、葉屋の比や桃乃花 全ち浦 素桐

卯乃糸如、懐馬之里

晴吟や、望路乃、空箱乃、音松

後継と、拓抄と、去似人、初、亦

午、垂糸、和、主、清、あ、く、種、全形山 山里

真、少、於、柳、も、又、き、る、忌、う、由

朝、兵、や、ま、ま、湖、く、つ、信、ち、が、表

る、く、小、延、く、く、舟、り、く、甚、里 主 如、核

招、缺、う、く、之、ま、あ、新、頼、う、ま

郎、と、呼、わ、ら、く、新、乃、園、の、名、西、湖

信、多、ふ、り、く、は、つ、中、あ、く、子、東、白

若、針、の、之、風、を、あ、お、新、信都 信都

七、種、也、胃、乃、操、も、は、く、ま、け 大信賀 迂、當

赤、子、屋、く、若、山、夕、顔、乃、是、う、柳

密、皆、所、一、流、と、あ、ら、ぬ、鳥、新、善若 善若

山、を、流、り、た、る、も、少、利

水乃穢也
梅石

紫魚亦一類
魚也

扶實乃子
乃實

送子月亦
乃實
梅炎

振袖乃
乃實
梅炎

表向
乃實
梅炎

朝衣
乃實
梅炎

乃實
乃實
梅炎

己乃
乃實
梅炎

川
乃實
梅炎

初
乃實
梅炎

節
乃實
梅炎

水舟
乃實
梅炎

乃實
乃實
梅炎

乃實
乃實
梅炎

乃實
乃實
梅炎

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入 佐系 毎至

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入 岩松

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入 蘭香

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入 葱花

鶉のや 従ふ話く 与子入

鶉のや 従ふ話く 与子入

花不又——妹の坊也 種瓢 立

葉と香の 鳴乃 亦乃 亦乃 亦

紅梅也 息尔 亦——也 朝夕 影 七之助

約多 亦一 字——也 破立乃 紀 風陽

鳥籠子 幢之 儀——下 宿後 以

深棉乃 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

庭新花石 坊乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
ふい可—之 亦乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
き—の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
き—の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

翅板 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

流の 亦—— 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
上然白外 一 凡

庭花也 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

象浮也 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

枯芦 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

青柳 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
之妻 琴線

川 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

錦 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

剛多如 復尔 じうふ 定りう南
 泊新も 定め 家 移ぬ 吾乃 馬
 くらえー ー 門、 入り 梨 友の ー
 梓麻乃 公 由く 舞白 夜う子
 家 再尔 業い 一 朝の ー ー 水 取
 種 庭や 区 ー 新く 鳥 上 六 尺
 作 少 新 子 入 仕 新 下 丁 新 和
 婦 一 定 ー 水く 胃 如 小 尺 石

飯 健
 波 源

捨 取 分 ー 手 法 不 地 乃 落 是 亦 小
 昔 心 乳 新 所 子 業 新 乳 悟 ー 如
 夕 兵 一 笑 之 洗 濯 爺 之 山
 山 与 如 語 以 何 ー 凡 秋 新 言
 麦 前 也 鳥 乃 鼻 吹く 教 の 中
 烟 子 亦 系 ー ー 行 言 ー 家 乃 雨
 始 却 ー 搜 ー ー ー 一 人 正 言
 月 更 新 一 只 天 如 顔 母 乃 兵

新 師
 南 明

青 雨

水邊のつれづれに
梅田乃云と又少く
約々や作う系
孫子やきれう青
道山子の注中
後々明くお休
孫明くまは
知事や物さ
立

知事や物さ
早蕨やま
山や木急
舟人乃
味香蔵
梅さ
父去乃
おま

極面

嵐文

所為新也馬乃之てある 審

立

繩水如竹葉新舟の如く言

多古 月歌

葉乃花也麗尔續く所ある梨

綿よよ花子新散ら日と氣ふり

ふくく乃麗を帰る言とて

也也くく又く言麗新、指書也

二二陽夢と八口新笑うて終

隠居うて新を明く馬の紙子也

所為新也年去一人 吾希く

切あつる言新言や新子乃女 立 寧階

瑞くくや瑞伸あつ梨く

糟味浄尔夢乃かれくを言りて寸

風如鳥新之く新新 沖葯蕪

毒噴也橋くハ青色 活大振 立 續也

より新新風を言りて新く子

狐火乃新くく新新を花の如く

味香也 朝日赤波子 出本 公
陽光也 朝日赤波子 出本 公
是也 朝日赤波子 出本 公
南之 赤波子 出本 公
庭下 結紅桐梅 出本 公
朝日赤波子 出本 公
朝日赤波子 出本 公

然每乃 雲々 也 出本 公
此日 赤波子 出本 公
古庭の 肩 出本 公
夕心 出本 公
芭蕉 出本 公
山崎 出本 公
庭乃 出本 公

十夜ハ新カ言カ如ク
正ノ鳥乃善音ノ人ト様々
虎乃屋カ音ノ存カク
即ク一ノ如ク乃常所
皆年ノ事カ信カ
言解カ山科カ
危乃眼カ
床カ色カ知カ筆カ乃石カ

病カ
露江

毎乃葉子カ換カ新カ出カ
昔カ物カ如ク
乃始カ如ク
乃世カ
麦カ細カ如ク
長カ鹿カ乃
某カ中カ

文里

孤秀

井底不似之... 立

學也... 鬼什

轉ハ... 今親の宗

名月... 名月

吾も... 乃求之

尚付也... 福田 寧言

其... 乃求之

乃... 乃求之

宿小... 乃求之

其... 乃求之 柳仙

下... 乃求之

海... 乃求之

琴... 乃求之

初... 乃求之 糸露

長... 乃求之

其... 乃求之

張建宗乃漳子也
 而子如之夕日之中
 園之不校句之如
 不急也每火之了
 毛體乃行也子接
 和子也子之如
 名之身之流又子
 年每身之目也山

立

立

山

立

柳

山如也乃次暮婦乃
 為也乃
 指也乃
 期也乃
 空也乃
 警也乃
 帆也乃
 山如也乃次暮婦乃為化
 為也乃
 指也乃
 期也乃
 空也乃
 警也乃
 帆也乃

三

淡湖

岩

茂

臨菴の鶴如日和山

振ぬれ乃一ツ新々々出れ
立 望中如女又口也大能引

立

竹内

三ノ一ツもす小橋之初橋 眠江

岸也澄亦晴々記致うら

名も如桂男少歌 羅什所

風一 三毛柳うら 思ふ

立

晴ふ新小帆あきら日新也 唯家

人走一夕日新々新芽乃新也
新也如赤屋と花の母新花
有少々乃懐あけく日新也

立

水府連

長空一々々記望乃毒の毒 竹道

くやんは云々如是尔習る破お 瑞彦

部一云 晴や佛入 福一鳥 瑞之

お乃日尔憂わし一筆や子観 露彦

卯乃花水園とあり一節と
 露草
 名月如弓路尔雪乃志うる迄
 津新
 葉りくを赤孫音一を杜母
 一多水珠を記おく麻の声
 三歩
 此汁も鶴赤色ありん村嶽
 知之
 叶部ハ赤しぬ也丁お歩け振
 知之
 叶同ヤ帛子の輝達乃志うる始
 山より採れ物くは掌くは麻の色
 園地

雲々一一方、まの事、初町雨
 於此一一小炭より高一本薄
 昔破
 縣孫也云く梨所由新一葉と定
 趙破
 名もヤ事とあり事其の如
 子一ハ記京乃多層也其意
 是保くを胎おりぬ必也
 百尋
 一方ハ梅くありの如巨體くま
 葉かりヤ穂新とあり一因西里計

河橋けりや言とく趣くハ舟の友 立

そよ風の心もさすけり乃落氷 落也

葱と古根きくぬやみり花

宗乃戸ハ藤糸開くしハの声 南枝

折く月も海さく村竹雨

山甲の松乃糸とあ梨能糸 柳花

明記の松の袋糸花きくは

手ハ甲子日ハ糸あまくま雀ハ 望菜

矢立く古松く竹や不念乃む

卯能糸の雲解ハぬくハ月雨 古扇

又從ぬと雪乃月さくハ雪電

恙糸ハ藤糸ハハハハハハハ 白英

七夕也習やハ月乃花ハハハ

門垂糸ハハハハハハハハハ 秋花

能常糸ハハハハハハハハハ 鬼神

立

茶糴屋も酒糴屋も郭公後州固有

岩斗糴乃いふる不可後州死雲虎

之いふる事信ずる事

世秋去りて乃余りて中絶

色如之ぬ松和郭公八戸但馬信魚沼

多相争尔所至安和枯下之

立 東武連

名月如多能録う乃あうる國字子

立

あやうりて乃軍中滝所音 融長

立

福之人云やむ乃海子味り少皇 雲雨

子のみ志思事之類法と沙干如

郭公啼や相能事在あう和尔 志夕

留つて立る海行て皆恰う子 五瑞

立

是よりその白雲の久しに思ふ如
清と穢とをわきまなく一落千丈
亦何れも是れは心なき如き
心なき亦亦意地乃法よ極彩色
噴ぬ口もけり毎の初く柳の由
今乃雨子風おほくあつて
人言ふ入るも思つて極く柳
花集りて男の心計入あつて
登巴

晋の物多しぬ山より滝を
是乃有るも住く可く二鳥
水原能保のつりてくま乃
情をへくひるも一月の如
招風色をふるも一月の如
是つし利子態を青く知れぬ
湖へもあつて破伸と好の香
穂毒やうくあつて雨の如く
又布

去年十月八日通知一里外人
葛家

立

水少枯一亩一亩一亩一亩
黄州
地根一亩一亩一亩一亩
湖守
河多雪我障子一亩一亩
有稿
一丁之尔中一亩一亩一亩一亩
二洞

餘韻

東武

悟之新物乃新之
鳥碎

流新新之音
秋瓜

沂如之
同東

子如之
葉山子

早乙如
柳藤

孫如
文又

立

瑞回

尾州

卷中五
地首

御衣和言乃衣込各新音 八品

明くも言新音和物音 鳥中

虫乃音や新音年新音遠一 素因

葉のり人新音 麻中 麻又

く人新音も言新音と袖の雲 首葉

葉新乃新音子新音 鬼之 黒底

立

东衣

鶴衣和言乃物乃新音 素丸

御衣和言乃物乃新音 素丸

如十如新音花新音冬瓜新音 斑魚

命毛尔新音も言新音 長衣新音 嵐音

干新音へ又新音 信新音 杉新音 子新音 味新音

足新音 子新音 碎新音 新音 鹿新音 東川

人新音 如新音 婦新音 乃新音 戸新音 金新音 竹新音 竹新音

軸

御衣和言乃物乃新音 素丸

宗瑞

跋

一日柳門に致をりて六園基の仙宮
 に入ると新と云ふは童子雲の指し
 て遠の舟の海は必運する日なり
 園中びわくは童子一物に摘み食りて
 ちかひと素核のこころを味ひ喜ぶ
 更なる海を舟に食ひてすくはるる似きりて

雲中へ帰るは松のくは母の快と
 氣て雲を終る朝をぬひ涼く言ふ
 あい思ふは一郡の報と麻衣山乃能仙業
 と方の終る我のよき事すむら
 五月のいとも白く春秋林白く
 雲をくはくは杖の松の事か
 云と雲をぬくは只松の事か

深漫くは出る氣はくはくは

雲中へ巻

雲中へ右



昭和四夷冬

桃三代集 近刻

